

Ⅲ 財務諸表（要約版）

1 貸借対照表

（単位：百万円）

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	28,356	固定負債	29,848
有形固定資産	25,211	資産見返負債	912
無形固定資産	61	長期借入金	6,672
投資その他の資産	3,084	移行前地方債償還債務	15,640
流動資産	7,353	引当金	6,596
現金・預金	3,580	長期リース債務	28
未収金	3,633	流動負債	5,491
貸倒引当金	▲ 50	1年以内返済予定長期借入金	1,232
医薬品等	163	1年以内返済予定移行前地方債債務	1,384
その他	28	1年以内返済予定リース債務	20
		未払金	1,975
		賞与引当金	634
		その他	245
		負債合計	35,339
		純資産の部	金額
		資本金	306
		資本剰余金	20
		利益剰余金	45
		純資産合計	371
資産合計	35,709	負債・純資産合計	35,710

2 損益計算書

（単位：百万円）

科目	金額	計画	平成26年度
経常収益(A)	23,222	23,319	22,606
医業収益	16,846	16,869	16,458
介護老人保健施設収益	373	407	405
看護師養成所収益	15	16	10
運営費負担金収益	5,480	5,480	5,172
その他経常収益	508	547	561
経常費用(B)	23,185	22,910	22,675
医業費用	21,197	20,875	20,662
給与費	11,912	11,683	11,432
材料費	3,898	3,635	3,782
減価償却費・資産減耗費	2,322	2,363	2,346
経費	2,994	3,115	3,023
研究研修費	71	79	79
雑支出	-	-	-
介護老人保健施設費用	434	468	438
看護師養成所費用	140	150	120
一般管理費	296	293	297
財務費用	538	545	583
その他経常費用	580	579	575
経常損益(A-B)	37	409	▲ 70
臨時損益(C)	▲ 4	-	▲ 3
当期純損益(A-B+C)	33	409	▲ 73

3 キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	2,413
医業等収入によるキャッシュ・フロー	17,020
運営費負担金収入によるキャッシュ・フロー	5,480
医業業務活動収入によるキャッシュ・フロー	168
人件費及び材料費によるキャッシュ・フロー	▲ 16,549
その他の業務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3,165
利息の支払額	▲ 541
II 投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	▲ 578
III 財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	▲ 1,757
IV 資金増加額(D=A+B+C)	78
V 資金期首残高(E)	502
VI 資金期末残高(F=D+E)	580

4 行政サービス実施コスト計算書

(単位：百万円)

科 目	金 額
I 業務費用	5,751
損益計算書上の費用	23,189
(控除)自己収入等	▲ 17,439
II 引当外退職給付増加見積額	18
III 機会費用	37
IV 行政サービス実施コスト	5,806

(参考) 財務諸表の科目の説明

1 貸借対照表

固定資産

- 有形固定資産・・・土地、建物、医療用器械など
- 無形固定資産・・・ソフトウェア、電話加入権など
- 投資その他の資産・・・修学資金貸付金など

流動資産

- 現金及び預金・・・現金、預金
- 未収金・・・医業収益に対する未収金など
- 貸倒引当金・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため回収不能見込額を引当
- 医薬品等・・・医薬品、診療材料、貯蔵品の期末棚卸在庫
- その他・・・前払保険料、賃借料の前払いなど

固定負債

- 資産見返負債・・・償却資産に充当した補助金等相当額
- 長期借入金・・・県からの借入金
- 移行前地方債償還債務・・・法人移行前に借り入れた地方債の償還債務額
- 引当金(退職給付引当金)・・・将来支払われる退職給付に備えて設定される引当金
- リース債務・・・リース取引に係る債務

流動負債

- 1年以内返済予定長期借入金・・・長期借入金のうち1年以内に支払期限が到達する債務

1 年以内返済予定移行前地方債償還債務・・移行前地方債償還債務のうち1年以内に支払期限が到達する債務

未払金・・・・・医業費用等及び器械・備品など償却資産に係る未払債務
1年以内支払予定リース債務・・リース債務のうち1年以内に支払期限が到来する債務
未払費用・・・・・1年以内返済予定移行前償還債務及び長期借入金に係る未払利息
賞与引当金・・・・・支給対象期間に基づき定期に支給する役員及び職員賞与の引当金
その他・・・・・預り金、仮受金など

純資産

資本金・・・・・設立団体である県からの出資金
利益剰余金・・・・・業務に関連して発生した剰余金の累計額

2 損益計算書

医業収益・・・・・医業（入院診療、外来診療など）に係る収益
介護老人保健施設収益・・介護老人保健施設の営業活動に係る収益
看護師養成所収益・・・・看護師養成所の運営に係る収益
運営費負担金収益・・・・高度医療、政策医療等に要する経費に係る県の負担金
その他の経常収益・・・・補助金収益、資産貸付収益など
医業費用・・・・・医業（入院診療、外来診療等）に要する給与費、材料費、委託費、減価償却費、研究研修費など
介護老人保健施設費用・・介護老人保健施設の営業活動に係る費用
看護師養成所費用・・・・看護師養成所の運営に係る費用
一般管理費・・・・・本部組織に係る給与費、経費など
財務費用・・・・・借入金の支払利息
その他の経常費用・・・・控除対象外消費税など
臨時損益・・・・・臨時的に発生する収益や費用

3 キャッシュ・フロー計算書

業務活動に係るキャッシュ・フロー
 医業等収入によるキャッシュ・フロー
 ・・・・・医業及び介護老人保健施設の営業活動に係る収入
 運営費負担金収入によるキャッシュ・フロー
 ・・・・・県からの運営費負担金に係る収入
 医業業務活動収入によるキャッシュ・フロー
 ・・・・・国、県等からの補助金、寄付金など
 人件費及び材料費によるキャッシュ・フロー
 ・・・・・人件費、医薬品等の材料費購入に係る支出
 その他の業務活動によるキャッシュ・フロー
 ・・・・・上記以外の業務活動に係る収入、業務活動に係る支出
投資活動によるキャッシュ・フロー
 ・・・・・固定資産の取得、除却に係る支出など
財務活動によるキャッシュ・フロー
 ・・・・・長期借入れによる収入、移行前地方債償還債務の償還による支出など

4 行政サービス実施コスト計算書

業務費用
 損益計算書に計上される費用から医業収益などの自己収入を控除したもの
引当外退職給付増加見積額
 事業年度末に在籍する県からの派遣職員について、期末の自己都合要支給額から期首の自己都合要支給額を控除したもの
機会費用 県からの出資額を一定の利回りで運用した場合に想定される利息相当額等

IV 財務諸表の要点

1 財務諸表の概況

(経常収益)

平成27年度の経常収益は23,222百万円と、前年度と比較して616百万円増加しましたが、年度計画との比較では97百万円下回りました。

主な理由は、次のとおりです。

- (1) 医業収益が、前年度と比較して388百万円増加しましたが、年度計画との比較では23百万円下回りました。
 - ・ 入院収益は、須坂病院での患者数の増加や外科の全身麻酔による手術数の増により増加する一方、木曽病院では患者数の減、手術数の減により減少し、こども病院も高額特定入院料算定患者の減により収益が減少しました。また一人当たり診療単価は須坂病院と阿南病院を除き減少しましたが、5病院全体の入院患者数が対前年度比104.3%となり、増加となりました。

年度計画との比較では、木曽病院で計画を大きく下回ったことや診療単価が減少したことから、全体では144百万円下回りました。
 - ・ 外来収益については、須坂病院で午後外来など患者増の取り組みによって収益が増加しました。その他の要因として、こころの医療センター駒ヶ根で院外処方を進めたこと、こども病院で高額薬剤対応を院外処方化したことによる収益減、逆に木曽病院では肝炎に対する超高額薬剤処方による収益増がありましたが、薬剤費に伴う外来収益の増減については、経常費用の薬剤費と相殺され、損益には影響していません。5病院全体の外来患者数が対前年度比102.2%と増加したことなどもあり、外来収益全体としては増加しました。

年度計画との比較でも、5病院全体でほぼ計画どおりの患者数となり、105百万円の増となりました。

- (2) 運営費負担金収益が308百万円増加

- ・ 平成27年度から第2期中期計画に入り、運営費負担金が増加しました。

(経常費用)

平成27年度の経常費用は23,185百万円と、前年度と比較して510百万円増加し、年度計画との比較でも275百万円上回りました。

主な理由は、次のとおりです。

- (1) 医業費用が、前年度と比較して535百万円増加しましたが、年度計画との比較では275百万円上回りました。
 - ・ 給与費は、人事委員会勧告に準拠した給与制度の改正や退職給与引当金の増、年金制度改革による法定福利費の増により各病院で増加し、全体では前年対比480百万円の増加、計画対比でも229百万円増加しています。
 - ・ 材料費については、院外処方の推進や高額薬剤の取扱いにより、病院ごとにばらつきはありますが、全体では患者数の増加もあり前年対比、計画対比ともに増加しました。
 - ・ 経費については、木曽病院、こども病院で委託料が増加していますが、原油価格の下落により燃料費が下がったことや、修繕費が少なかったこと等により前年対比、計画対比ともに減少しました。
 - ・ 減価償却費は、こども病院で電子カルテの償却が終了したことなどにより28百万円の減額となりました。

(損益)

平成27年度の経常損益は37百万円の経常利益となり、前年度の経常損益を106百万円上回りました。

また、木曽病院の看護師宿舎の改築に係る解体費用として臨時損益▲4百万円を計上した結果、当期純損益は、33百万円の純利益となりました。

(資産)

平成27年度末の資産合計は35,709百万円となり、前年度に比べ1,384百万円減少しています。これは、建物改修等の多額な設備投資がなかったこと、木曽病院の電子カルテ更新等により、減価償却額が増加したことによるものです。

(負債)

平成27年度末の負債合計は35,339百万円と、前期末と比較して1,416百万円の減少となりました。これは、移行前地方債償還債務が1,355百万円、長期借入金が379百万円それぞれ減少したことが主な要因です。

2 施設等投資の状況

(資本的収支状況)

(単位：百万円)

項目		平成27年度 実績(a)	平成27年度 計画(b)	実績-計画 (a)-(b)	備考
収入	長期借入金	768	1,191	△ 423	
	その他収入	30	25	5	
	計	798	1,216	△ 418	
支出	建設改良費	788	1,218	△ 430	
	施設整備事業	-	30	△ 30	
	その他建設改良事業	254	369	△ 115	
	医療機械等整備事業	534	605	△ 71	
	その他	-	214	△ 214	
	貸付金	31	53	△ 22	
	移行前地方債償還債務元金償還金	1,355	1,355	0	
	長期借入金元金償還金	1,147	1,147	0	
	計	3,321	3,773	△ 452	

(1) 主なその他建設改良事業

木曽病院	職員宿舎改修工事
こども病院	南棟受変電設備更新工事

(2) 主な医療器械等整備事業

須坂病院	血液検査総合システム、超音波白内障手術装置
こころの医療センター駒ヶ根	脳波測定・脳波閲覧システム
阿南病院	マルチカラーレーザー光凝固装置
木曽病院	乳房X線撮影装置、心臓用超音波診断装置
こども病院	多目的デジタルX線TVシステム、超音波診断装置